

逗子の景観まちづくり

瓦版 第六十九号

二〇二〇年十一月二十日 次号は一月発行予定

編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百五十文字以内の

景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」

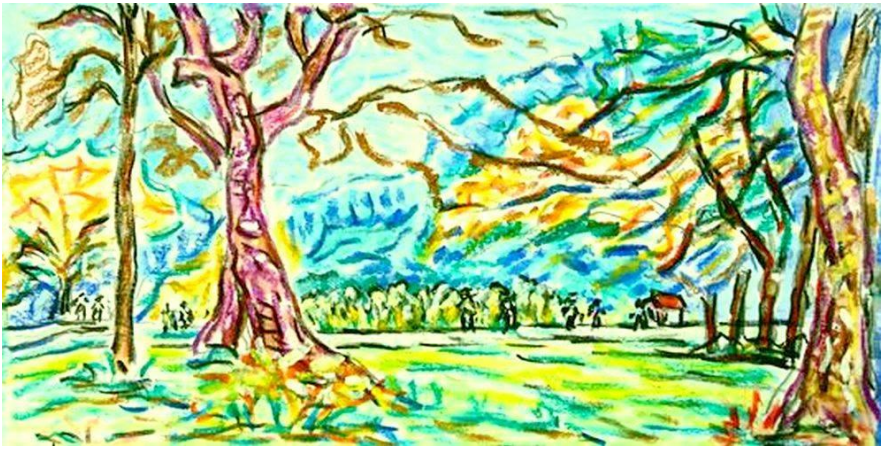
電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.lg.jp

『ちよこつとスケッチ』

逗子のイベントや街角で、帽子をかぶり、ちよこつとスケッチされている男性



「池子の森」

がいます。新型コロナウィルスの影響でここ数カ月お目に掛かれませんが、最近にはミニ畑の世話をしているとのこと。

昨年のお池子のイベントの絵と文を紹介します。

10月21日「池子の森のプチトレイル。目の前で、森の藪に生きる生物を、自然観察会の先生の愛のこもった観察と解説に、納得したり、好奇心が満足されたり。

野鳥の観察。夏鳥から秋鳥に変わり、もう直ぐ、冬鳥が渡って来るそうです。高い枝で、チ、チツチーと鳴いている鳥。オオルリと云う鳥です。野鳥の鳴いている現場で、鳥の名前と鳴き声を生まれて初めてセットで知りました。感激です。深まる秋の、自然の森の景観をぼーっと楽しみ。

眼の前の印象を、ちよこつとスケッチ」

10月27日「池子の森音楽祭。今日一日、子供も、大人も、外国の方も、みな平等に、広い運動場で、嬉々として楽しく過ごしました。午前から参加して、思いがけず、クラシックギターの名演奏を聴くことができました。若い頃に、クラシックギターに夢中になりました。今では、指の腱鞘炎のため、殆んど演奏出来ません。毎日、ユーチューブで、世界のギタリストの演奏を聴くほど。何と、池子で聴けるとは。

午後からの出し物は、痛快な、ちんどん屋さん。確か、子供の頃に出会って以来です。ちんどんは、クラシックギターとは対照的な芸術といえる。同じブラスで、演奏する不思議。お囃子太鼓の音に、後ろに続く子供たちと、私も幼き日に、戻りました。

今日の日を、ありがとう。ちんどんを、ちよこつとスケッチ」



「池子の森音楽祭」

彼のスケッチするところに逗子らしい景観ありと感じます。

紹介文 玄 真琴

文中の文・絵 木下 俊延



まちなみデザイン返子賞

あなたは返子のどんなところが好きですか？まちの好き、教えてください！

例えば、こんな応募がありました！

募集期間：募集中～2020年11月30日まで

▶まだまだ募集中です！

「まちなみデザイン」とは、海、山、川などの自然景観ではなく、人々の生活によって作られている景観です。返子の豊かな自然と調和した家、通りに潤いを与える前庭、まちの雰囲気をよくしているお店や看板、街角にあるコミュニティスペースや花壇、その手入れをしている人々の活動。生活をするうえで豊かさを感じさせる景観を作っていく気づかい、ステキだと思いませんか？どなたからの応募、推薦も大歓迎です。ご応募お待ちしております。

詳しくはまちづくり景観課のHPまで！

まちなみデザイン返子賞

検索



住宅地内にあり、配慮されたデザインの屋外広告物

自治会で所有・管理している
まちかどの広場

旧宅地にあった樹木を分譲後も残し、庭木として利用しているうち



「まちなみデザイン返子」

「まちなみデザイン返子」は市と市民団体『ほととぎす隊景観部会』が共同作成しました。身近に出来る景観づくりのヒントがわかりやすく、イラスト付きで書かれています。



とこ とこ
ひとり * * * まちあるき ~秋のまにまに編~

イベントとスポット
をご紹介します！

原風景と返子の歴史的建物の現状

20年前、返子市内近代和風建築調査で取り上げられた約90棟の建物のその後について検証し、新たに調査を始めた建物も含め、課題と今後の展望を探ります。

ヘリテージマネージャー

とは歴史的建造物の保存活用に関する専門知識を持つ建築士等の専門家のことです。

【イベントについて】

- ・日 時：12/5 (土) 13:30-15:00
- ・会 場：黒門カルチャークラブ (返子市新宿 1-4-7)
- ・参加費：1,000円 / ・定 員：20名
- ・主 催：地域の原風景を生かすまちづくりの会
- ・共 催：かながわヘリテージマネージャー協会
- ・後 援：神奈川県登録有形文化財建造物所有者の会、返子葉山経済新聞

★申込&問合せ先 ⇒ mail: genfuukei2018@gmail.com
電話：050-3740-0415

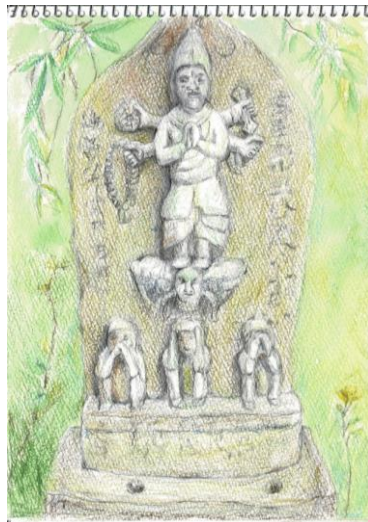


桜山の三猿

「返子市内には何と八十数基の庚申塔が現存され、庚申信仰がさかんに行われたことが推測される」と返子市文化財資料集「路傍の石仏その一」に書かれていました。数の多さに納得でした。以前住んでいた地域でも庚申塔は見えました。しかし、返子の庚申塔には三猿が六十一基掘られている事にも驚きでした。

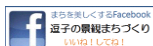
日蓮上人が法性寺で白猿三匹に救出された土地だからかと想像するととても楽しくなってきました。

越してきて最初に石仏に出会ったのが田越明神社内でした。庚申塔が六基、地藏菩薩二基が山を背に整然と並んでいました。その中の延宝九年の舟型塔に魅きつけられスケッチさせて頂きました。『日月を陰刺し、六臂青面金剛像は合掌をし、右手に輪宝と数珠、左手に金剛杵と払子らしいものを持つ。邪悪を踏まえた下側に、前向きの三猿、向かって左より「言わざる」「聞かざる」「見ざる」が並んでる。』と資料に説明がありました。三猿が愛おしい。



文・絵 田中 慶美

瓦版編集担当 返子市環境都市部まちづくり景観課



ぜひ先睹しするFacebook
返子の景観まちづくり
のページに！

返子市HPやフェイスブックも見てください！

瓦版のバックナンバー・瓦版冊子は返子市庁舎一階、まちづくり景観課窓口、市民交流センターに配架しています。